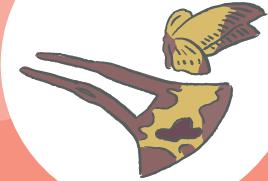




とう

きょう



でん

とう

こう

げい

ひん

# 東京の 伝統工芸品



東京都

とう きょう でん とう こう げい ひん

# 東京の伝統工芸品について

みんなが住んでいる東京には、昔から大切にうけつがれてきた「宝物」があるんだ。それは、職人たちが、東京のまちで長い時間をかけて、一つひとつ心をこめて手作りしてきた「伝統工芸品」。手作りだからこそそのあたたかみや、使いやすくて♪



じょうぶなところが、みんなの毎日をもっと楽しく、豊かにしてくれるよ。昔からの文化を今に伝える、とても大切な役割もあるんだ。今、東京都にある42種類のすてきな伝統工芸品を紹介しよう!



むら やま おお しま つむぎ

## 村山大島紬

あま み おお しま おおしまつむぎ  
ルーツは奄美大島の大島紬

えど めい じ じ たい  
江戸・明治時代に人気だった着物

むさ し むら やま し こうきゅうきぬおりもの  
武蔵村山市で、昔から「高級絹織物」と

うつく ぬの  
いう上品で美しい布が作られてきたん

こま かすり お  
だ。細かくてていねいな「絣」(織りで絵

がら ひょうげん お  
や柄を表現するために、織る前に糸を

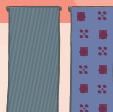
そ も よう  
染め分けること)模様が入っていて、ぼ

かしやにじみのある独特な柄がとくちよ

う。昔の人は  
ふだん着と

して着てい

たよ。



とう きょう そめ こ もん

## 東京染小紋

えど じ たい  
近づいてよく見るとびっくり!  
江戸時代からつづく伝統技術

も よう  
0.5~1ミリという、とても小さな模様  
が、くり返しがかれている染め物。昔、  
おとの様が着物に自分の藩(おさめて  
いる土地)の目印をつけたのが始まり。  
近よると細かい点や線の模様におどろ  
くはず。この  
「かくれたお  
しゃれ」が、江  
戸の“粹”な心  
をあらわして  
いるんだ。



ほん ば き は ち じ ょ う

## 本場黄八丈

都心から南へ300キロ  
自然豊かな八丈島の着物



八丈島で、島の草木だけを使って染める  
絹織物。色は黄色、黒色、樺色(赤み  
の強い茶黄色)の3色のみ。昔は黄色が  
多かったけど、今は黒がほとんど。着物  
を知りつくした人が最後にたどりつくと  
いわれるほど、あこがれの工芸品だよ。



とう きょう ぎん き

## 東京銀器

世界中の人をおどろかせた  
和製銀器の重厚なかがやき



日本は昔、世界でもとくに多くの銀がと  
れる国だったんだ。職人が厚さ1ミリく  
らいの銀の板を、かなづちや木づちでた  
たいて形を作っていく工芸品で、フラン  
ス・パリの万国博覧会に出品されたと  
き、ヨーロッパの人々はその完成度の高  
さにおどろいたんだって。



え ど き め こ み に ん ぎ ょ う

## 江戸木目込人形

おもちゃじゃなくて  
かけがえのないお守り



お父さんとお母さんが子どもの成長や  
健康をいのって贈る人形。体の原型に  
ほった溝に、服になる布地をはめこんで  
いく「木目込み」という日本ならではの  
技術で作られる。子どもが大きくなった  
時にも、両親の深い愛情が伝わるよう  
にとの願いがこめられているんだ。



とう きょう て が き ゆ う せ ん

## 東京手描友禅

はなやかな京都の着物に  
江戸の“粹”を表現



京友禅、加賀友禅とならぶ日本三大友  
禅のひとつ。手分けして作業するほかの  
友禅染めとちがい、一人の職人が下絵  
から色をぬるところまで、すべて手描き  
で仕上げているんだよ。東京の現代的  
な街なみにぴったりの、わかわかしい着  
物だね。



た ま おり

## 多摩織

人の手が生みだす  
ここちよい模様のずれ



昔から織物づくりがさかんだった八王子市に伝わる、5つの織物のよび名。染めた1200本もの糸をわざとずらしながら織ることで、独特な模様に計算された質の高い技。手仕事ならではの自然な風合いと、シンプルで飽きのこないデザインが、東京の“粹”を伝えているよ。



え ど し き

## 江戸漆器

金属でも陶磁器でもない  
長い間愛されてきた器



漆器は、漆という木のえきを何十回もぬり重ねて作る器のこと。どう器に負けないくらいじょうぶで、美しい光沢があるよ。熱い汁ものを入れても器が熱くなりにくく、なめらかな口あたり。くさつたり、ゆがんだりするのを防ぐ漆のとくちようをいかして、長い間愛用されてきたよ。



とう きょう

## 東京くみひも

ひも むす  
紐を結ぶことを  
し ごと  
仕事にした職人がいる



日本は、世界的に見ても紐が発達した国といわれているんだ。昔、「くみひも」が武士のよろいや刀に使われていたことから、日常で使う機会が広まり、今もうけつがれているよ。きつすぎず、ゆるむこともないよう、職人が糸と糸をていねいに交差させて作っているよ。



え ど べっこう

## 江戸籠甲

ウミガメの甲羅から  
生みだされる美しい模様



ウミガメの一種「タイマイ」の甲羅から作られる。熱を加えることで、自由に形を変えられるのがとくちよう。職人の技術は、はりあわせる作業で一番あらわれるから、ひとつとして同じデザインは存在しないよ。江戸幕府の将軍・徳川家康も籠甲のめがねを愛用したんだって。



え ど は け

# 江戸刷毛

こう げい ひん  
工芸品を作るための道具が  
いっしゅか工芸品そのものに



しつ き うるし  
漆器に漆をぬったり、人形に色をつけたりと、ほかの伝統工芸品を作るためにかかせない道具。使うものに合わせて、人や馬の毛、植物のせんいなど、いろいろな材料を使い分けている。毛がぬけにくくじょうぶで、使う人に合わせて作られているから、職人たちに長く使われているんだよ。



え ど

かんざし

# 江戸つまみ簪

花や鳥などがモチーフ  
着物に合う髪飾り



せい ほう けい  
正方形に切ったうすい絹の布を、ピン  
セットでつまんで小さく折りたたみ、花  
や鳥の形を作る髪飾り。お正月や七五  
三などで、着物を着た女性の髪を美しく  
ひきたてるよ。花や鳥は、本当に生きて  
いるみたいに元気でいきいきして見える  
んだ。



とう きょう ふつ だん

# 東京仏壇

おん や  
いろいろな分野の技を  
あつめた総合芸術



お寺のデザインのえいきようをうけた、  
こま さいく したん こくたん  
細かい細工がとくちょう。紫檀や黒檀と  
いた特別な木や、くわの木の模様をそ  
のまいかした、おごそかな美しさを  
もっているよ。彫刻や、漆をぬる「塗装」、  
くぎを使わない「指物」など、たくさん  
の技が集まった総合芸術ともいわれてい  
るよ。



とう きょう がく ぶち

# 東京額縁

か ち  
絵の価値を高める



かい が か ち  
絵画の価値をさらに高めるために、絵  
に合わせて作られる額縁。職人は画家  
と話し合い、作品に一番合うデザインを  
考えていくんだ。はじめからおわりまで  
自分たちで作ることで、いろいろな注文  
にこたえられる作品

を作ってきたんだ。  
しょくにん て し ごと  
職人は手仕事なら  
あじ  
ではの味わいを大  
事にしているよ。



え ど そ う げ

# 江戸象牙

ゾウの牙きばを使用  
きょううな芸術品



ゾウの牙きばをほって作られる工芸品で、昔  
中国から伝わってきたんだ。なめらかな  
肌ざわりや光沢がとくちょうで、置物や  
髪飾りなどに使われてきたよ。箏や三味  
線のような和楽器にも使われていて、手  
の汗あせですべりにくく、手になじむ性質は、  
多くの演奏家に愛されているんだ。



え ど す だ れ

# 江戸簾

歴史が古く「万葉集」にも登場  
涼しげな見た目



家の窓の外につるし、日よけや目隠しと  
して使われるすだれ。風通しがよく、天  
然素材のさわやかな香りが、夏を涼しく  
感じさせてくれるよ。京都のすだれとく  
らべて、使いやすくてシンプルなデザイン。  
風情があり、家のインテリアとしてく  
らしになじむ快適さが魅力。



え ど さ し も の

# 江戸指物

くぎは一本も使わない  
それが江戸のあたりまえ



「指物」は、くぎをまったく使わず、木の板  
にほった「でこぼこ」を組み合わせて作  
る家具や小物のこと。金具も必要な分  
しか使わず、くわや桐きりといった木の美し  
い模様をいかしたデザインがとくちょう。

オーダーメイドで、見え

ない部分ぶぶんでも手をぬか  
ない職人しょくにんの心意気こころいきに  
よって、何十年も使いつ  
づけることができるよ。



え ど さ ら さ

# 江戸更紗

インド生まれの布模様  
「江戸」らしい美しさ



3000年以前にインドで生まれた、も  
めんの布を染める技。そのあと、アジア  
やヨーロッパに広まったんだ。日本の伝  
統的な「型染め」を使い、江戸らしい、お  
ちついた色合いにしているよ。多いとき  
には90枚もの型紙ひがみを使い、色を重ねる  
ことで、外国の更紗さらさにはない、美しい色  
の変化かわいがわいを生みだしているんだ。



とうきょうほんぎめ

# 東京本染ゆかた・手ぬぐい

本物のゆかたを知る人は  
日本人でも少ない!?



湯上がりに着る着物としてしたしまれ、  
今ではおまつりや花火大会など夏の行事で着られるようになったゆかた。日本だけの手法で染められていて、ちがう色を同時にそそぐことで生まれる美しい色のグラデーションは、職人の高い技術があつてこそ。



え と い し ょ う ぎ に ん ぎ ょ う

# 江戸衣裳着人形

昔からの伝統文化

人形に生命をふきこむ



日本では昔からお父さんとお母さんが子どもの成長や健康をいのつて人形を贈る文化がうけつがれてきた。職人の技により木ぼりで人のような空気感を表現したり、ガラスの目を入れたりすることで、人形に生命をふきこんでいくんだ。やさしさや力強さが感じられるよ。



え と わ ざ お

# 江戸和竿

え と ちょうにん

江戸の町人は

つりの道具にさえ粹を求めた



日本人にとって、つりは趣味として楽しむもの。とくに太平洋やたくさんの川がある東京はさまざまな釣竿があつたんだ。釣る魚の種類に合わせて、竹を使い一本一本オーダーメイドで作られる。魚の力をうまくにがすよう計算された「しなり」は、ほかの竿では味わえない最高の釣りごこちを生みだしているよ。



え と ま り こ

# 江戸切子

食卓をいとどる

美しい色ガラス



ヨーロッパの「カットグラス」の技術を取り入れ、色ガラスの表面をけずり、美しい模様をきざみこんだ工芸品。色被せガラスの厚さは1ミリもなく、細かくほることで、シャープで美しいかがやきが生まれる。魚の卵がならんだように見える「魚子」など、20種類ほどの伝統的な模様があるよ。



え ど お し え は ご い た

# 江戸押絵羽子板

おいわいで贈られる羽子板

絵柄は日本らしい文化がモチーフ

お正月の伝統的な遊び、羽根つきで使う羽子板。女の子の誕生いわいに贈られ、元気な成長をいのる縁起物もあるよ。布でわたをくるみ、立体的な絵に仕上げる「押絵」の技が使われ、美しくいきいきとした表情をあらわしているんだ。



とう きょうとう こう げい

# 東京籐工芸

くらしと体にとけこむ  
芸術的な日用品

籐という東南アジアの植物で作られた、イスやかごなどの工芸品。軽くてじょうぶで、曲げたり結んだりしやすいので、昔からいろいろな製品に利用されてきたよ。組み立てはすべて手作業で、くぎが見えないようにするなど細かい心くばりがされているんだ。



え ど か っ ち ゅう

# 江戸甲冑

強さのシンボル・よろい

子どもへの愛情をあらわした五月人形

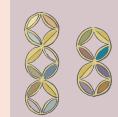
昔の武将が着ていた「大鎧」を、本物そっくりに再現したもの。男の子の健やかな成長をいのる端午の節句に、強さのシンボルとして飾られ、そのあと五月人形として飾られるようになったよ。部品も手作業で作るので、完成までの作業は5000もあるんだって。



え ど し しゅう

# 江戸刺繍

はりを使った細かな糸が  
美しい絵のような芸術を生む



日本の刺繡のはじまりは1400年も前。絹の糸を使い、布に美しい絵や模様をぬいあらわす技術で、多いときには数万回もはりを動かし、細かな絵のような作品を作り上げているんだ。絹糸ならではの美しい光沢があって、見る角度によってかがやきが変わるのがとくちよう。



え ど もく ちようこく

## 江戸木彫刻

道具で仕上げる

美しい木の彫刻

お寺や神社の柱、おまつりで使う山車などに飾られる、木のほり物。仏像をほる仏師が、大きな穴をほるのに使うノミと細かくほるのに使う小刀を使い分けるのに対して、この職人は何百種類ものノミで仕上げているんだ。ヤスリをかけず、ノミの切り口だけで木のかがやきを引き出しているよ。



とう きょう うち は もの

## 東京打刃物

この国ではハサミでさえ

日本刀と同じように作られる



日本刀を作る「刀鍛冶」の技術をうけついで作られた、包丁やハサミ。職人の手で作られる刃物は美しい形とかがやきをもっているよ。日本刀のように、するどい切れ味がとくちょう。軽くてもちやすく、その美しさと使いごこちのよさが100年つづくといわれる一生もの。



とう きょう ちよう きん

## 東京彫金

金属をキャンバスに

日本画をえがきだす

金属の板に、鑿という道具を使って日本画のような絵をほる技術。ほったあとに深い部分と浅い部分ができることで、筆で書いたときのかすれぐあいを再現しているよ。指輪や着物の帯留めなど長い間愛用する人が多いんだ。



え ど ひょう ぐ

## 江戸表具

なんびやくなん

何百年も前の作品が

今も美しくのこっている理由



数百年前の書道や絵画が、今も美しくのこっているのは「表具」という技術のおかげ。古くなった作品のまわりを新しい布や和紙でカバーし、かけじくなどに仕立て直すことで、作品を長もちさせ、さらに美しく見せてくれるんだ。職人のこだわりが、生きづけているよ。



とうきょう しゃ み せん

# 東京三味線

えん ぎう か しょくにん

演奏家と職人の

さうえん ねい ねいとう

共演で生まれる音色



400年以上の歴史をもつ和楽器。ひとりの職人が仕上げまでを行い、演奏する人とよく話し合って一人ひとりに合ったものを作るのがとくちょう。演奏家のうでのよさを見きわめたうえで、素材をえらび、一番よい音色を出しやすいように作りあげる、職人と演奏家の共同作品なんだ。



とうきょう むじぎめ

# 東京無地染

ふの きじ じゅつけい



自然の中にある色をいかす

お客様の好きな色に合わせて、白い生地を一枚の布に染め上げる、もっとも基本的な染め方。色の見本は170色以上あり、職人は5つの基本の色をまぜ合わせ、理想の色に近づけていくんだ。自然にあるようなやさしい色合いがとくちようで、一度染めたものをほかの色に染め直すこともできるよ。



えどふで

# 江戸筆

しょどう か が か あいよう

書道家や画家も愛用

しょくにん ふで

職人のこだわりが生む筆



えど 昔、江戸に住むたくさんの人々に、学問や芸術が広まるのを支えた筆。そのほとんどがオーダーメイドで作られ、有名な書道家や画家も使ってきたんだよ。ヤギや馬など、動物の毛を使いわけて、すみや絵の具をふくむ量が一番くなるように作られているよ。



とうきょうこと

# 東京琴

えん そう か



演奏家のうで前に合わせて作る

世界にひとつだけの楽器

琴に使われる桐の木は産地やそだつた環境でかたさや味わいがちがうんだ。職人は甲羅の厚さを調節しながら内側をけずつていく。とくに胴体となる桐をけずる作業は、音色を決める大事なところ。技と経験が演奏と合わさり、ひとつの音を生みだしている。



え ど

# 江戸からかみ

くらしは変わっても

美しいと思う心はうけつかれる

昔の日本の家で、部屋を区切るふすまを飾るために作られた紙。今はふすまだけでなく、壁紙やポスターのように、部屋のインテリアとしても使われているよ。職人による草花などの伝統的な模様は、現代の部屋にもよく合うので、ホ

テルなどにも  
広まっている  
んだ。



とう きょう し っ ぱう

## 東京七宝

えいひょう ぎじゅつ  
国の英雄をたたえる技術を

毎日のファッションに

きんぞく こな こう おん  
金属の板の上に、色ガラスの粉を高温で焼きつけて、模様をえがいた工芸品。

もよう こう けいひん  
色ごとに何回も焼きつけて、表をみがくことで、模様がくっきり見えるようにするんだ。はっきりとした色のさかい目や、あざやかな絵の細かさがとくちょう。ピ

アスやペンダ

ントなど、いろいろな製品  
が作られてい  
るよ。



え ど もく はん が

# 江戸木版画

ほん のもの ふう けい  
本物の風景よりも

あざやかに表現

え ど じ だい う よ え ささ  
江戸時代に大人気だった「浮世絵」を支えてきた木版画の技術。絵を描く「絵師」、木をほる「彫師」、紙に色を重ねる「摺師」の3人でひとつの作品を作っていく。現実よりもあざやかで、いきいきとした浮世絵の本当の魅力を伝えているんだよ。



とう きょう て うえ

## 東京手植ブラシ

しょくにん て さ ざ よう  
職人の手作業で

やさしい肌ざわりが生まれる

しょくにん う  
職人が一つひとつ手で毛を植えこんで作るブラシ。馬やぶたなどの動物の毛を使い、手の感覚をたよりにちょうどいい量を植えていくことで、毛がぬけにくいやうぶなブラシになるんだ。馬の毛で作られた洋服ブラシは、カシミヤなどのデリケートな生地をいためない、特別な肌ざわりだよ。



え ど が ら す

## 江戸硝子

けいさん  
計算された飲み口は  
水の味さえ変えてしまう



外国と日本の技術が合わさって生まれたガラス製品。たくさんの種類を少しづつ作るのがとくちようで、注文に合わせたオリジナルも正確に作り上げているよ。口あたりがよいグラスは、水やお酒の味、香りを引き立てるために計算された形をしていて、職人の技術は海外でも高い評価をうけているよ。



とう きょう よう かさ

## 東京洋傘

ゆううつな雨の日を  
よろこびに変える魔法



骨を作る人、もち手を作る人、生地を作る人、それらを組み立てる職人とみんなで協力して作られる傘。雨の日もはれの日も、天気に合わせて使うことで、気分を明るくしてくれるんだ。美しさと使いやすさを両方そなえた東京洋傘はバランスのよい形で、私たちの心を豊かにしてくれるよ。



え ど て が き ち ょ う ち ん

## 江戸手描提灯

え ど じ だい か  
江戸時代の描き方を  
うけついだち ょ う ち ん



細い竹のほねぐみに紙をはり、家のもんようである「家紋」や文字を手でえがいたちようちん。どんなにふくざつな家紋でも、道具を使わずに自由にえがく職人の高い技術が光る。折りたたんでもちはこびしやすくて、お土産にもぴったり。部屋を飾るイントリアとしても人気があるんだ。



とう きょう て ほ いん し ょ う

## 東京手彫り印章

さ ざ ぎょう  
すべての作業は  
“世界にひとつ”的め



自分の名前がほられた、世界にひとつだけの証明となるはんこ。江戸時代からつづくはんこは、文字のデザインからほり上げるまで、すべての作業をひとりの職人が行っているんだ。髪の毛一本分という、気の遠くなるような細かさで仕上げるはんこは、機械では作れない、芸術作品ともいえるよ。

